

砂川市少年の主張大会

主張全文紹介④

優良賞「まん防が終わった今だから」

石山中学校3年 太田 菜絵



みなさんは、身近に一生治らない病気を持っている人はいますか。

私の祖母は、20年程前から腎臓病を患っています。「慢性腎臓病」という腎臓の機能が慢性的に低下していく腎臓病の総称です。もう、治ることはないよということ、風邪をひいても死んでしまうかもしれないので十分に気をつけなくてはなりません。

祖母は帯広に住んでいます。両親の休みが長くとれないのと遠い所に住んでいるため毎年、数回しか会いに行けません。そして、一昨年からは、新型コロナウイルスが流行りだしてしまっただけでもあり、まったく会いに行けなくなりました。

祖母はいつも

「大丈夫だから、遊びにおいで。」

と言ってくれていましたが、私たちがもし、コロナウイルスにかかっていて、祖母にうつしてしまったら大変だということで会いに行くことを避けてきました。しかし、長い間会えないことが寂しかったので、皆が休みをとれた日に会いに行きました。家には上がらず、マスクや距離をあけ、感染対策もしっかりしました。祖母は、

「家に入りなさい。」

「泊まっていけばいいしょ。」

と声をかけてくれましたが、私の両親はそれを断りました。祖母のそばで過ごすことよりも感染の心配のほうが大きかったからです。

また、祖母は趣味のサークルで、リーダーを任されていて、その一環として本州へ行く仕事を頼まれていました。もちろん母は、猛反対しました。なぜなら、本州はコロナウイルスの流行が北海道よりも多く、もし感染したらという不安があったからです。

祖母にその仕事を頼んだ人は、祖母の病気のことを知らなかったわけではないようでしたが、普段は薬を飲んでいても、普通に生活をしているので、病気のことを忘れていたのかもしれない。

世の中には、いろいろな人がいます。私たちが見てすぐわかるような目や耳、足などの障がいを持っている人もいれば、祖母のように目で見てもわかりにくいけれど、体の中に病気を持っている人もいます。

ですから、お願いします。すべての人が健康な私たちと同じだと思わないでほしいのです。何かしらの配慮が必要な人は、私たちの近くにいないかもしれないのです。

コロナが流行り始めた最初の頃から比べたら、亡くなってしまう人は、少なくなったのかもしれませんが、しかし、今もコロナにかかり、亡くなってしまう人はいくらもいます。祖母のように、コロナにかかったら重症化してしまう持病がある人もたくさんいます。家族はかからないように、うつさないように細心の注意をしながら生活をし、なかなか会うことができなくても我慢をしているのです。

私たちのように、コロナ感染を恐れている家族がいることを知ってください。まん延防止等重点措置が終わった今も、一人一人がマスクや密を避ける感染防止対策をしっかりと生活することが大事だと、そう思います。

(※この主張文は昨年の冬に書かれたものです)

審査員の講評

新型コロナウイルスは感染、発症による体への影響も報告されていますが、人の心にも多くの影響を与えていることが指摘されています。発表から、人はそれぞれの状況や思い、考えの違いが元で不信感を持ってしまう事があり、その解決には相手の思いを理解し、自分の思いを分かりやすく伝え合うことが大切であることと、最新の新型コロナウイルス感染症対策をみんなで行っていく必要があることを感じました。